

研究主題 情報活用の実践力を高める学校W e b サイト活用の在り方  
— C M S を利用した「みんなで作る参加型ホームページ」の作成と運用を通して —

筑西市立竹島小学校（平成20年度） 教諭 小倉 康雄

研究の概要及び索引語

情報活用の実践力を高めるには、必要な情報を主体的に選択し、受け手の状況などを踏まえて発信できることが必要である。本研究では、児童が情報発信を行い、学校と保護者、地域住民とが交流できる学校W e b サイトをC M S を利用して作成した。さらに運用を通して、情報活用の実践力を高める学校W e b サイト活用の在り方を究明した。

索引語： 情報活用の実践力、学校W e b サイト、C M S、NetCommons

1 主題設定の理由

文部科学省の「初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について」（平成18年8月）（以下「情報教育に係る学習活動の具体的展開」と表す）では、情報教育とは「子どもたちの情報活用能力の育成」とであると述べられている。そして、情報活用能力は、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の3観点に整理され「3観点相互の関係を考え、児童生徒の発達段階に応じバランスよく身に付けさせることが重要である」と述べられている。さらに、小学校段階では「情報活用の実践力に焦点を当てつつ、情報社会に参画する態度、更に情報の科学的な理解も含めて育成していくことが望ましい」と指摘されている。

また、中央教育審議会の「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」（平成17年10月）では、信頼される開かれた学校づくりを実現するためには、保護者や地域住民が「学校教育に積極的に参画すること」が重要であると述べられている。そして、文部科学省の「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」（平成18年3月）では、学校が保護者や地域住民と情報や課題を共有するために、幅広い人々に大量の情報を提供できる学校W e b サイトを積極的に活用すべきであると指摘されている。

本校のW e b サイトにおいては、これまでの3年間の取組によって様々な情報を掲載できるようになり、更新頻度が上がった。しかし、課題として次の二つのことが挙げられる。一つは掲載内容について担当者のみの作成が多く、各教師や児童のかかわりが少ないということである。二つは、保護者や地域住民からの反応がほとんどないということである。

本校のW e b サイトの課題を解決するためのツールとしてC M S がある。C M S とは「コンテンツ・マネージメント・システム」（Contents Management System）の略称である。専門的な知識がない場合でも、W e b サイトの作成が

できるように工夫されている。CMSの導入には、コストを考え、オープンソースで提供されているCMSを利用しようと考えた。

CMSの利用は本校Webサイトの課題解決のために次の2点において有効であると考えた。一つは、記事の作成や承認、Webサイトの管理といった作業を多人数で分業できる点である。二つは、Webブラウザ上からワープロで文書を作成する感覚での書き込みが可能となるので、これまでより保護者や地域住民からの意見や感想、要望等が得やすくなると考えられる点である。

多人数での更新が可能になるというCMSの利点を生かし、児童が学校から情報発信を行えるようにし、情報活用の実践力を高めたいと考えた。

児童が情報発信を行い、学校と保護者、地域住民とが交流できる学校Webサイトの作成と運用を通して、情報活用の実践力を高める学校Webサイト活用の在り方を究明したいと考え、本主題を設定した。

## 2 研究のねらい

児童が情報発信を行い、学校と保護者、地域住民とが交流できる学校Webサイトの作成と運用を通して、情報活用の実践力を高める学校Webサイト活用の在り方を究明する。

## 3 研究の内容

### (1) 基本的な考え方

#### ① 児童による情報発信について

「情報教育に係る学習活動の具体的展開」では、情報活用の実践力は「必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」とであると述べられている。

本研究では、実際に児童が学校Webサイトから情報発信を行うことを通して、情報活用の実践力を高めたいと考えた。

児童が情報発信を行う際には、日々の学校生活での思いや考えを児童自身の言葉で、閲覧者に分かりやすく伝えられるようにしたい。そして、それらの発信内容に対して、保護者や地域住民から温かな意見や感想等が寄せられれば、児童はさらに意欲的に取り組むようになると考える。

同時に、情報機器やインターネットを利用することを通して、情報の科学的な理解や情報社会に参画する態度についても身に付けさせたいと考えた。その中で、情報モラルや情報発信の責任については、具体的な場面に応じて、教師が指導しながら進めていきたい。

本研究で高めたい情報活用の実践力を表1のように考えた。

#### ② 学校Webサイトを通じた保護者や地域住民との交流の意義

地域に開かれた信頼される学校づくりを実現するには、学校の情報や課

表1 本研究で高めたい情報活用の実践力

<ul style="list-style-type: none"><li>・発信したい情報を選択し、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。</li><li>・文字や画像等を組み合わせ、発信したい内容が伝わるような表現方法を工夫することができる。</li><li>・著作権や肖像権、個人情報の保護等に気を付け、閲覧者を意識して情報発信を行うことができる。</li></ul>
--

題を保護者や地域住民と共有し、積極的な参画を得て、学校運営をすることが求められる。つまり、学校と保護者、地域住民とが子どもたちの成長という目的を共有し、その実現のために互いに意見を交流し、学校づくりを進めていくことが重要となる。その姿を図1のようにとらえた。そのためには、学校が十分な情報提供を行い、保護者や地域住民と交流できる場を設定する必要がある。本研究では、学校と保護者、地域住民とが交流する場の一つとして学校Webサイトを活用しようと考えた。

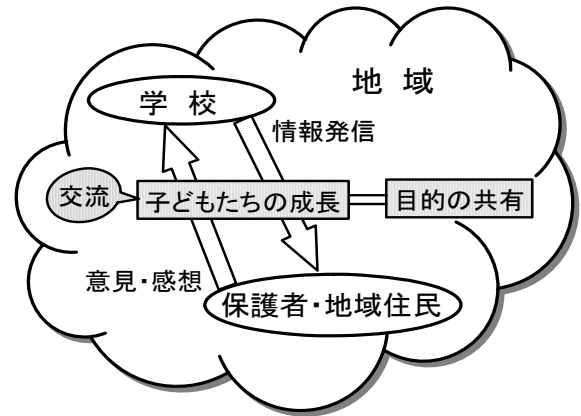


図1 開かれた学校の姿

児童が情報発信を行い、それを基に交流していくことは、子どもたちの成長という目的を学校と保護者、地域住民とで共有し、その実現を目指して学校づくりを進めることにつながる

③ 「みんなで作る参加型ホームページ」運用方針の策定

児童が情報発信を行い、学校と保護者、地域住民とが交流できるWebサイトを「みんなで作る参加型ホームページ」として作成していくことにした。

交流の場として、次の二つの場の設定を考えた。一つは児童が情報発信を行い、それを基に保護者や地域住民と交流する場である。もう一つは、作成にかかわる質問や疑問と応答、アイデア等の情報の交換、共有の場である。交流を行っていく上で、表2のような運用方針を策定した。

児童を情報発信の中心として、周りの教師や保護者、地域住民が温かく見守っていく「地域コミュニティとしての学校Webサイト」を基本コンセプトとし、保護者や地域

表2 「みんなで作る参加型ホームページ」運用方針

<p><b>1 基本理念</b>  「みんなで作る参加型ホームページ」は、児童、先生、保護者、地域の方々の交流の場となることを願って運用しています。  「子どもは地域の宝」をキャッチフレーズに地域の子どもの成長を地域のみならず見守っていきこうということが基本理念です。  「地域コミュニティ」としてホームページを活用したいと考えています。</p> <p><b>2 子どもたちによる情報発信の意義</b>  ① ホームページを通して実際に情報発信を行う中で、子どもたちが情報発信のスキルを身に付けられるようにしたいと考えます。  ② 子どもたちが進んで学校の様子を発信することで、自分に対する自信や学校に対する愛着がもてるようにしたいと考えます。  ③ 日々の学校生活の中心である子どもたちの「思い」や「声」を多くの方に伝えたいと思います。</p> <p><b>3 閲覧者との交流の意義</b>  閲覧者の皆様には「みんなで作る参加型ホームページ」に様々な形で参加していただくことが可能です。閲覧者との交流が子どもたちの更新意欲向上につながります。</p> <p><b>4 サポーターの参加意義</b>  サポーターの方から子どもたちへの温かなコメントは、子どもたちに自信や誇りを与えたいと考えます。  また、サポーターの方の作成による「PTA・地域ブログ」で、子どもたちの地域での活動の様子が紹介され、蓄積されていくことで、貴重な地域情報となると考えます。</p> <p><b>5 開かれた学校づくりのための「みんなで作る参加型ホームページ」の意義</b>  「みんなで作る参加型ホームページ」をたくさんの方のかかわりで作成していくことで「竹島小学校の子どもたちがどのように成長しているか」を広く伝えることができると考えます。</p>
---

住民と交流して「みんなで作る参加型ホームページ」を作成していこうと考えた。

(2) 主題に迫るために

① NetCommonsの利用

今回の研究では、オープンソースCMSとして、NetCommons（ネットコムズ：国立情報学研究所が開発）を利用することにした。

NetCommonsを選択した理由は次の3点からである。

一つは、ブログやデータベース、掲示板等の情報発信、情報共有のための機能が最初から組み込まれている点である。二つは管理者による承認、利用者の権限設定機能がある点である。三つは、各種機能を利用する際の操作画面がワープロソフトと同様の形式で統一されている点である。

② 「みんなで作る参加型ホームページ」の設計

運用方針に沿って「みんなで作る参加型ホームページ」を図2のように設計した。公開するすべての記事は、担当者の確認、学校長の承認後にWebサイトに掲載することにした。

万一、心ない書き込みがされることも想定し、承認前は管理者以外に記事内容が見えないような設定を考えた。

また、外部に公開されないグループルームでは、掲示板を活用し、作成にかかわる質問や疑問と応答、アイデア等の情報を交換、共有しようと考えた。

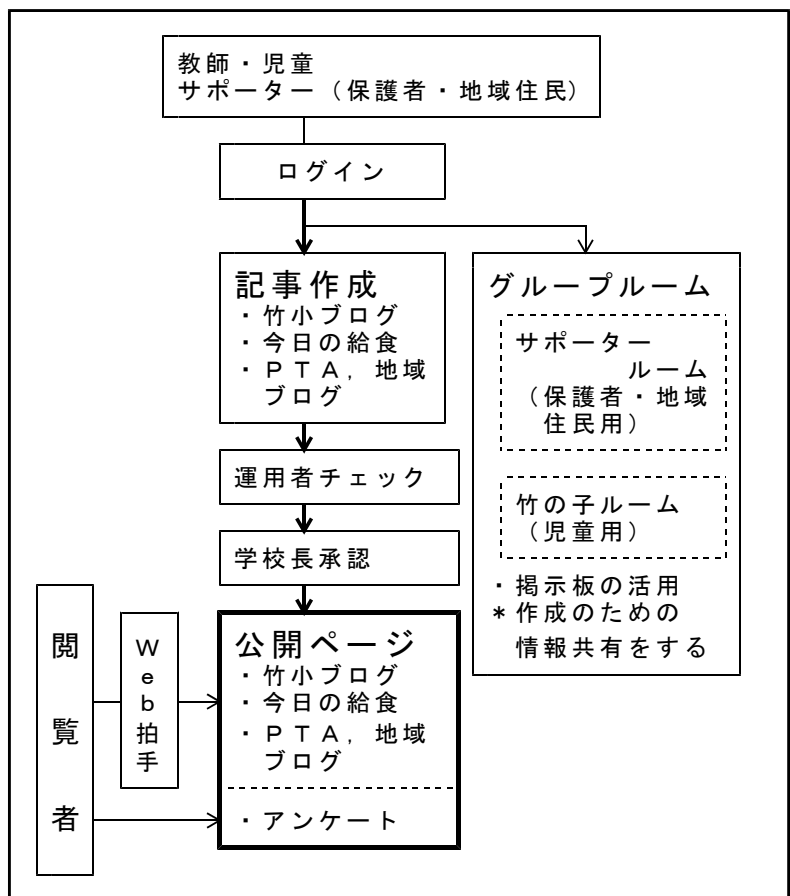


図2 「みんなで作る参加型ホームページ」設計図

4 研究の実際

(1) 「みんなで作る参加型ホームページ」の作成

① パスワードの設定

パスワードの設定を表3のようにした。教師用と児童用は、アカウントとパスワードをそれぞれ一つずつ設定し、共用することにした。

校外から書き込みができる保護者、地域住民を「サポーター」として募集し、サポーターには個人ごとに1人一つずつアカウントとパスワードを

設定，配布することにした。

- ② 外部公開用Webサイトの作成  
図2に基づいて実際にWebサイトの作成を行った。

ア 竹小ブログ

これまで学年ごとに作成していたブログを「竹小ブログ」として一つにまとめることにした。主に児童が中心となって情報発信を行い，教師やサポーターがそれらの記事に対してコメント記事を投稿することを通して交流していこうと考えた。

イ 今日の給食

日々の給食について紹介する目的で作成した。児童が記事を作成しやすいように「写真，月日，こんだて，感想」という形式で記入できるように設定した。本校は自校給食であり，児童が日々食べている給食については保護者も関心が高いことが予想される。また，よりたくさんの児童が簡単に情報発信にかかわることができると考えた。

ウ 参加しよう!!竹小Web

閲覧した人が誰でもWebサイトに参加できる仕組みがあることや，児童の情報発信を中心に教師や保護者がかかわって作成しているWebサイトであることを閲覧者に分かりやすく伝えられるようにしようと考えた。

そのために「参加しよう!!竹小Web」というコーナーを設置し，以下のような設定やコンテンツの作成を行った。

(ア) Web拍手の設定

コメントが寄せられることは，児童の記事作成への意欲向上につながる。しかし，コメントを受け付けることで，心ない言葉が届くことや，反対にコメントがほとんど届かないことも予想された。

そこで気軽に閲覧者が参加できる機能として「Web拍手」を設定した。「Web拍手」とは，ボタンをクリックすると，その数がカウントされるという機能である。記事作成者にとっては，自分の書いた記事を誰かが読み，ボタンを押してくれたということが目に見えるので，記事作成

表3 パスワード設定

参加者	権限	パスワード(数)
管理者	サイト構築 書き込み	管理者用(1)
教師	書き込み	教師用(1)
児童	書き込み	児童用(1)
サポーター	書き込み	個人単位

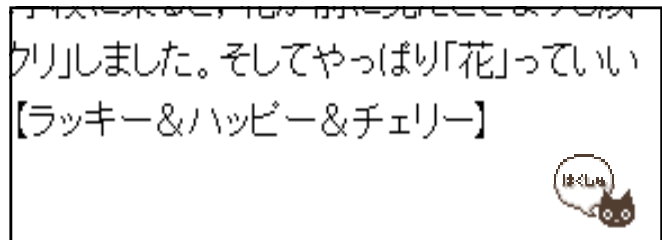


図3 Web拍手ボタン



図4 拍手後のメッセージ

への意欲向上につながり、ボタンを押した閲覧者にとっては、参加意識の向上につながる。

児童の情報発信に対する応援であるということが分かりやすくなるように、図3のような猫の画像の拍手ボタンと、図4のような拍手後に表示されるメッセージを設定した。

#### (イ) 「応援しよう!!」、Web拍手バナーの作成

初めて本校Webサイトを訪れた人にもWeb拍手について理解して



図5 Web拍手バナー

もらえるように、その意義や方法についての説明を「応援しよう!!」というコンテンツとして作成した。

また、Web拍手が可能である各ブログや今日の給食コーナーには図5のようなバナーを設置した。説明を読まなくともWeb拍手をしてもらえるようにしようと考えた。

#### (ウ) 「みんなで作る参加型ホームページ」についての説明コンテンツの作成

安全に運用するために、校外からの書き込みをサポート者のみに限定することにした。しかし、そのことがサポーターでない一般の保護者等に、「一部の人だけが、見えないところで何かこそこそやっている」という印象を与えてしまう可能性も考えられた。

そこで交流のできるWebサイトであることがすべての閲覧者に分かるように、取組の趣旨や、サポーター登録の方法、サポーターとしての活動等について説明するコンテンツを作成した。

### ③ グループルームの作成

グループルームとは、パスワードをもった人のみが入れるページで、外部には公開されない。図2の設計図に基づいて二つのグループルームを作成した。保護者、地域住民用の「サポータールーム」と、児童用の「竹の子ルーム」である。両方のルームを閲覧できるのは管理者のみとした。

二つのグループルームには、それぞれに利用規約、写真の撮り方、記事作成のマニュアル、掲示板を作成した。掲示板では、記事作成についての質問や疑問と応答、アイデア等について情報を交換、共有しようと考えた。

#### ア 利用規約の作成

児童用の利用規約は「やくそく」としてまとめた。記事の書き方、肖像権や著作権、個人情報について記述し、図6のように作成した。また、児童の利用は、学校からのみとし、必ず教師の許可を得てから行うこととした。

サポーター用の利用規約には、投稿上の注意事項、パスワード等の管理について記述し、図7のように作成した。

#### イ オンラインマニュアルの作成

記事作成のためのマニュアルを、Webサイト内に作成した。

校外からアクセスするサポーターもいるので、一人一人に紙文書として配

布するより効率がよい。また、いつでも見たいときに見られる。

児童用のマニュアルには、注意事項として、絵文字の使用を一つの記事に二つ程度とすることや、題名の付け方を工夫することなど、見やすく分かりやすい記事にするための配慮事項についても付け加えた。

ウ コメント記事投稿のルールマニュアルの作成

児童の作成した記事に対してサポーターが意見や感想等を書く場合、NetCommonsのコメント投稿機能をそのまま使用すると承認を経ずに公開されてしまう。

学校のWebサイトという性質上、すべての記事は学校長の承認後に外部公開するべきであると考えた。

そこでコメント記事の投稿は、NetCommonsのコメント機能を使わず、通常の記事投稿と同じように承認後に掲載することにした。そ

のために、図8に示すようなコメント記事投稿のルールマニュアルを作成した。エ 児童の顔写真の取り扱いと「写真の撮り方」の作成

インターネット上に公開された写真は、劣化しないデジタルデータであるので、無限にコピーすることが可能である。

そのため、児童の顔が判別できない写真を掲載する必要がある。今回の研究では、公開前の最終的な画像の確認や加工は担当者が行うことにした。

**やくそく**

楽しく利用できるように、次のことを守りましょう。

1. 記事は、学校での生活の中で、よかったこと、がんばったこと、楽しかったことなどについて書いていきましょう。
2. 読んだ人が分かりやすいよう「いつ、どこで、だれが、どうしたのか」と自分の思いや考えを加えて書くようにしましょう。
3. 人の写真には、「肖像権」(しょうぞうけん)があります。だれであるか分かるような大きな顔の写真は、のせてはいけません。また、写真をとる前に「ホームページで使いたいの、写真をとってもいいですか。」と許可をもらいましょう。
4. 自分や友達の住所や電話番号などの「個人情報」(こじんじょうほう)は、のせてはいけません。
5. テレビやマンガにでてくるキャラクターの名前や写真などは、のせてはいけません。「著作権」(ちよさくけん)を守りましょう。

先生がチェックしてから、外に公開します。

**たくさんの人が見ます。正しい言葉遣いで分かりやすく伝えられるといいですね。**

学校での楽しいことをみんなにたくさん紹介しましょう。

図6 児童用「やくそく」

**3 サポーター登録にあたって**

(1)サポーターとしての登録は、いつからでもできます。登録があった時から、卒業時まで有効です。また、サポーターの登録解除の場合は、管理者アドレスまでご連絡下さい。

**4 投稿に関する注意事項**

(1)趣旨に反すると判断される記事は、掲載することができません。

(2)すべての記事は、学校長の承認後に掲載いたします。投稿いただいた記事は、場合により、修正して掲載することがあることをあらかじめご了承下さい。

(3)学校保護者地域とみんなで子どもたちを温かく見守り励まし育てていく「地域コミュニティ」の場としてホームページを活用していこうと思います。良識あるご利用をお願い致します。

(4)投稿する写真は、個人がはっきり分かるものは、掲載できませんので、ご注意下さい。管理者の判断で、加工させていただく場合があります。

(5)投稿の際のハンドル名は、キャラクターの名称等をそのまま利用することのないようお願いいたします。

**5 アカウント(ユーザ名、パスワード、ハンドル)の管理について**

(1)他の方に知らせたりすることのないよう管理をお願いします。

(2)ご家庭からの接続に限定し、特に、不特定多数が利用するコンピュータ(ネットカフェや公共施設のコンピュータ等)からの接続はしないで下さい。

(3)なりすましや不正アクセスの防止のため、パスワード、ログイン先は、定期的に変えさせていただきます。その際は、ご連絡致します。

(4)竹小ブログ、PTA・地域ブログ、サポータールーム等での書き込みの際には、文末に【**ハンドル**】と入れて下さい。

図7 サポーター利用規約の一部



CMSでは、マウス操作だけで写真の拡大や縮小が行える。縮小した写真では、子どもの顔も一見小さく見えるが、データとしては大きいままである。閲覧者が画像データをダウンロードした場合には、元の大きな画像として保存されてしまう。

しかし、遠目の写真ばかりでは何の写真か分からず閲覧者に訴える力が弱くなり、写真を掲載する意味が薄れてしまう。Webサイトに掲載する場合には、角度を変えて撮影することで、効果的な写真になる。

このような写真撮影の工夫について、図9に示すようなコンテンツをグループルームに「写真の撮り方」として作成した。

#### ④ 携帯電話用Webサイトの作成

児童によって更新された竹小ブログの内容は、保護者にとっては関心の高い内容となることが予想される。

しかし本校学区内では、インターネット環境が整っていない家庭も多い。より多くの人に閲覧してもらい、交流できるようにするために携帯電話用Webサイトを作成しようと考えた。

NetCommonsでは、ブログや掲示板の機能が最初から携帯電話からも閲覧できるように設定されている。NetCommonsの初期設定を図10に示すように、本校のWebサイトに合う設定に変更した。

#### ⑤ 使いやすくするための配慮

一つのWebサイト内にグループルームや外部公開ページを作成したため、

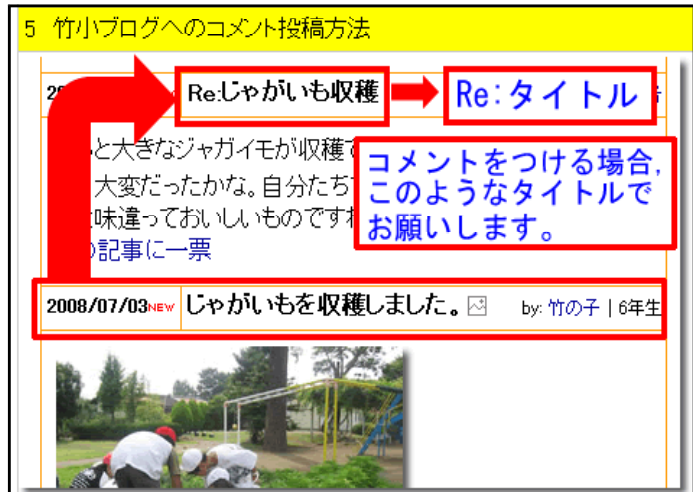


図8 コメント投稿方法マニュアルの一部



図9 写真の撮り方についての説明コンテンツ

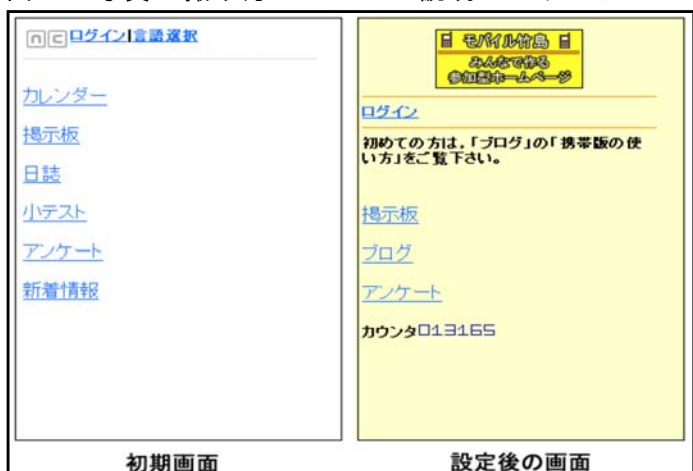


図10 携帯電話用Webサイト設定



児童やサポーター等が更新作業を行うページにたどりつくまでに迷うことが予想された。

そこで、トップページに図11のようなバナーを作成し、ログイン後に、バナーをクリックするだけで作成したいページにたどりつけるようにした。

これらのバナーは、閲覧者にとっても、すぐに児童が更新しているページにたどりつくための案内として有効となる。

また、NetCommonsの初期設定では、文字が小さく行間も狭く設定されている。年配者やインターネットの初心者にとっては、記事の内容が読みにくいので文字サイズや行間を大きめに設定し直した。



図11 トップページのバナー

#### ⑥ 個人情報保護のための工夫

インターネットにつながる環境とアカウントがあれば、どこからでもサーバーにアクセスできてしまうのが、NetCommonsで作成した本校Webサイトの特徴である。それは便利である反面、安全性の面から不安が残る。

実際の運用では、パスワードをもっている人しか閲覧できないグループルームにも、個人が特定できる写真や個人情報等を掲載しないことにした。

また記事を投稿する際には、実名は記述せずに記事の最後にハンドル（インターネット上での活動する時の別名）を記入することにした。これらのことは記事作成マニュアルに記述した。

#### (2) 「みんなで作る参加型ホームページ」の運用

作成した学校Webサイトを7月から児童、サポーター、教師が参加して運用した。

##### ① 役割の分担

NetCommonsで作成した本校Webサイトは、多人数で更新作業にかかわることができる。そこで、本研究では、具体的な記事の作成を児童、各教師、サポーターが行い、担当者は主にWebサイト全体の運用・管理を行った。

##### ② 「竹の子記者」による記事作成

###### ア 児童に対する配慮と指導

児童の作成した記事に対しては、サポーターや教師がコメント記事を投稿するようにした。作成した記事に、温かなコメントがもらえれば児童の作成に対する意欲は高まる。

また、竹の子ルームの掲示板では、規約だけでは対応しきれなかった作成記事に関しての具体的なアドバイスを掲載した。指導に当たっては、作成記事のよいところをほめることを心がけた。添削を行った場合には、どの部分をどのような理由で直したか、担当者が掲示板に記載した。

###### イ 竹小ブログの更新

現地研修（6月30日）において6年生児童に対して記事作成の方法につ

いて指導した。児童が実際に一つの記事を作成するまでにかかった時間は約20分間であった。

現在の6年生は、4年生の時からブログの作成にかかわってきており、情報発信について気を付けるべきことや、学校Webサイトにどんな記事を書くとよいかについて経験的に学んできている。そのため、Webサイトでの記事作成への抵抗感はほとんどなく、記事作成を行いたい希望者がたくさんいた。そのうち、15人の児童が参加した。



図12 竹小ブログ記事

これらの児童を「竹の子記者」とし、2人組の当番制で行った。7月からの更新作業に、児童は意欲的に取り組んだ。図12に示すように、慣れるにしたがい、題名の付け方を工夫したり、記事の内容も自分のクラスのことだけにとどまらず、学校全体にかかわることについて取り上げるようになった。

また、記事は「いつ、どこで、だれが、どうした」のかと、自分の感想を加えて書くように指導した。しかし、記事によっては、児童の安全面への配慮から不特定多数の人に詳しい内容を知らせない方がよいこともある。その場合は、担当者が添削を行い、掲示板で直した理由について記載した。写真も児童が撮影した。

#### ウ 今日の給食の記事

給食の献立について「竹の子記者」が交代で記事を作成した。給食について紹介すると「おいしい」という言葉だけで終わってしまうことが予想されたので「おいしい」という言葉を使わないで、その日の給食のおいしさを伝えられる感想を書くように現地研修で指導した。図13に示すような記事を7月の給食日13日のうち12日分作成できた。

### ③ サポーターとの交流

#### ア サポーターの募集

竹小ブログにおいて児童の作成記事へコメント記事の投稿を行ってくださる方を「サポーター」として募集した。3人の保護者の方が登録してくれた。登録者には電子メールでパ

月 日	7月9日(水)
こんだて	沖縄県の味 パン・牛乳・ゴーヤチャンプルー・イムナド ウチ・シークワサーゼリー
感想	今日の給食は、沖縄県の味ということで、沖縄らしい食材が、たくさんありました。ちなみに、ゴーヤチャンプルーは、「ごちゃませ」という意味があるそうです。【ナッポー】

(はくしゅの数(5))

図13 今日の給食記事

スワードを配布し、利用前にグループルームの規約を読んでもらうように連絡した。

イ 掲示板での情報交換，共有

サポーター用掲示板では，作成したWebサイトの使い方や，記事作成の仕方，写真の撮り方等について，情報を交換，共有することができた。

特にサポーターの方から挙げられた疑問点等については規約や作成マニュアルに反映させていった。サポーターの方からは，担当者だけでは気づかない点について意見をもらうことができた。サポーターの方の参加意識を高められるよう，書き込みに対しては必ず返信をするようにした。

ウ 竹小ブログでの児童との交流

平成20年6月30日から9月16日までに，竹小ブログでの児童の作成記事は23件あった。そのうち，13件に対してサポーターからコメント記事が寄せられた。これまでのように，電子メールで記事を提供してもらうことに比べ，活発な交流を行うことができた。

(3) 考察

① 児童の情報発信

竹小ブログでの児童の作成記事の分類は表4に示す通りである。

短い期間ではあったが，発信する内容を適切に選択し，記事を作成することができたと考える。また，記事のタイトルも表5に示すように工夫して付けることができた。写真も個人が特定できないもので，活動の様子が分かるものを撮ることができた。

資料1に示す児童の感想には「学校生活に広く目を向けるようになった」ことや「見る人の立場に立って」記事を作成したことについて書かれている。表6には，抽出児童の作成した記事とサポーターからのコメント記事の対応を示した。この抽出児童は，自分の当番日以外にも記事作成を進んで行った。作成記事の傍線には，児童の感想等が記されている。事実と自分の

表4 児童が作成した記事内容の分類

(調査期間 平成20. 6. 30～9. 16)

課外活動の紹介	5	休み時間の様子の紹介	1
授業の様子の紹介	4	委員会活動の内容の紹介	1
校内の様子の紹介	3	清掃の様子の紹介	1
給食の様子の紹介	2	サポーターへの返信	3
校内の動植物の紹介	2	その他	1

表5 児童が作成した記事タイトルの一部

2008/09/02 みんなからの意見募集しています！
2008/08/07 すてきな時計♪
2008/08/07 花壇に咲く色とりどりの花
2008/08/01 補充学習で1学期の復習かんぺき！
2008/07/31 元気に育ってね♪
2008/07/28 11月の音楽会に向けて
2008/07/28 楽しい全校宿泊学習にするため・・・
2008/07/24 梅ジュースのレシピ♪
2008/07/24 きれいな花を咲かす大切な土作り！
2008/07/22 夏バテ対策 梅ジュースでカンパイ！
2008/07/16 伝統的な竹島神社
2008/07/14 みんなで楽しく調理！
2008/07/11 みんな大好き！パースディ給食
2008/07/09 みんなできれいな歯！
2008/07/08 きれいな音色のリコーダー
2008/07/07 みんなが楽しみにしている パースデーカード作り
2008/07/03 じゃがいも大豊作！
2008/07/02 運動会へ向けて
2008/07/01 竹小のアイドルぬまたらう

感想等をきちんと分けて詳しく書くことができたと考える。8月7日の記事では「教頭先生」「用務員の先生」といった書き方をしており、個人名を出さな

いで書くことにも配慮している。サポーターや教師からコメントが寄せられたことで、意欲的に受け手を意識して記事作成を行うことができたと考える。

特に学校外の閲覧者であるサポーターの方が、作成したWebサイトの趣旨をよく理解し、児童の記事に温かなコメントを寄せてくれた効果は大きかった。

しかし、期間も短かったため、記事作成の回数が少なかった児童には大きな変化は見受けられなかった。

これらのことから、児童が学校Webサイトから情報発信を行うことを通して、情報活用の実践力を高めるには、教師が添削やアドバイスをしながら、記事作成の回数を重ねていくことが重要であると考えられる。

また、記事作成は、主に昼休みに教師の許可を得てから行うようにした。意欲的に取り組む児童に対しても、情報モラルにおける健康面への配慮の視点から、時間を守って行動できるよう今後も指導したいと考える。

## ② 記事作成のための情報交換、共有の場の設定

児童用とサポーター用の二つのグループルームを活用した。

児童用の竹の子ルームには、発信内容についての教師からのアドバイス、情報発信のための約束事、写真の撮り方等について掲載した。

資料2は、夏休みの登校日の日時について、児童が作成した記事に対して、教師が掲示板に記載したアドバイスの一部である。また、掲示板には、児童から「こんな記事を書きたい」といったことについての要望もあった。

このように、竹の子ルームを記事作成のための情報交換、共有の場として活用し、情報モラルや情報発信の責任についても教師がアドバイスを行った。

これらの手立てによって、児童は取り上げる内容を考え、発信の仕方に気を付けて、記事作成を行うことができたと考える。

サポーター用のサポータールームには「子どもたちの成長を温かく見守る学校Webサイト」という趣旨を明確にした規約や、マニュアル、写真の撮り方等について掲載した。これらのこと以外の疑問や質問は掲示板で受け付けた。

これらの手立てによって、資料3に示すようにサポーターが運用方針を理解し、積極的に取り組んでくれた。そしてサポーターの積極的な参加は、児童が閲覧者を意識して情報発信を行うことにつながったと考える。

## 資料1 ブログ作成をしての児童の感想

2008/07/29	ブログ作りをやってよかったこと	by: 竹の子
私はブログ作りをやるようになってから、いろいろなことに目を向けるようになりました。「どんな記事をのせたらいいかな」、「どんなふうにかいたら見る人により伝わるかな」など竹小ブログを見てくれる人の立場になって考えるようになりました。ブログを更新して次の日に見たときに、見てくれた人からメッセージが届いている時は「見てくれているんだな」と本当にうれしい気持ちになりました。夏休みも友達とブログ作りをしています。私はブログ作りが大好きです。忙しいときでもブログを「やりたい」「早く更新したい」と思っています。いろいろな人が見てくれているのでとても「やりがい」を感じます。これからも、いろいろな記事をのせて竹小での出来事を伝えていきたいです。【ラッキー】		

表 6 児童の作成した記事とサポーターのコメント記事の対応

児童の作成記事	サポーターのコメント記事
<p>2008/09/02 みんなの意見募集しています！ このポストは「ちょボラポスト」と言います。竹島小では、「ちょボラ隊」が学校をきれいにするための活動をしています。朝や昼休みに校内のゴミ拾いなどをします。その活動の一つとして、みんなから意見を募集する「ちょボラポスト」を廊下に置いています。私は「ちょボラ隊」事務局の一人です。「ちょボラ隊」の活動をしていて感じることは、休みの次の日の朝は、他の日と比べて少しごみが多いという事です。<u>みんなで協力して、よりきれいな竹島小学校になるようこれからも頑張っていきたいです！</u></p>	<p>2008/09/10 RE:みんなの意見募集しています！ ちょボラ隊のみなさんはとてもすばらしい活動をしているんですね。ゴミのないきれいな学校で過ごせることはとても気持ちのいいことです。まだまだ暑くて活動するのはちょっと大変だろうけれどがんばってください。</p>
<p>2008/08/07 花壇に咲く色とりどりの花 竹島小学校には1年を通してたくさんの花が咲きます。花のお世話は主に教頭先生と事務員の先生がしてくれています。清掃の時間には、外そうじの人達も花の植えかえを行ってくれています。今もたくさんの花がさいています。<u>夏休みの登校日に学校に来ると、花が前に見たときよりも成長していて「ビックリ」しました。そしてやっぱり「花」っていいなと思いました。</u></p>	<p>2008/09/10 RE: 時計&amp;花壇&amp;竹島の子 奉仕作業で学校に行った際に、時計&amp;花壇&amp;竹島の子を見てきました。特に花壇の花がきれいに咲いていて、丁寧にお世話されている様子がよくわかりました。これからもどんどん竹島小学校のことをおしえてください。</p>
<p>2008/07/31 元気に育ってね♪ この写真は7月24日の登校日の時にとった写真です。6年生が野菜の種まきをしているところです。まいた種は、だいこん・ブロッコリー・ほうれんそう・はくさい・にんじん・たまねぎなどの秋に収穫する6種類の野菜の種です。先生の話だと、じゃがいもを収穫した時のように、収穫したらクラスのみんで調理して食べるそうです。<u>ちなみにじゃがいもを収穫した時のことは、7月3日にブログにのせたので、見て下さい。野菜の収穫は秋ということで、まだまだ先のことなのですが、待ちきれない気持ちでいっぱいです。収穫するまで大切に育て、それぞれの野菜が「元気」に育ってほしいです。</u></p>	<p>2008/08/01 RE:元気に育ってね♪ たくさんの野菜の種を蒔きましたね。いろいろな野菜の成長過程を楽しむうちにあつというまに秋の収穫時期になってしまいますよ。手作り野菜は自分たちで世話をするということもあり、買ったものとはひと味もふた味も違います。作るだけでなく自分達で調理して食べられるのもまた魅力ですね。みなさんのように元気な野菜ができるといいですね。</p>

資料 2 教師のアドバイスの一部

夏休みも更新してくれたのですね。どうもありがとう。がんばっていてすばらしいです。とても楽しい記事ですね。記事の一部を直しました。インターネットは、いろいろな人が見るので、たとえば「夏休みの登校日がいつであるか」などの情報は、終わってから書くようにしてください。これから、記事を作るときに、気をつけてみてください。また、楽しい記事を作ってくださいね。

資料 3 サポーターの感想

参加した当初は「何を書こうか」と、とまどいがありました。しかし子供達の素直なコメントを見ているうちに自然にもっと声をかけてあげたいと思うようになりました。参加型ということで一方通行のHPとは違い、子供達と交流できる楽しさからサイトを開こうと思う気持ちが数倍にも膨れ上がります。実際に子供と大人が触れ合う機会が少なくなっているの、形がどうであれコミュニケーションをとれるということはとても大切なことだと思います。もっとサポーターの数を増やしてあげられれば…というのが課題ではあると思うのですが、システム的なことで気になるのは、以前にも掲載されておりますが、クリック数が多いということでしょうか。例えば拍手について言えば、拍手をして記事詳細にうつってそこでまた拍手をして、また記事一覧に戻るためにクリックする。拍手だけでなく全体的にスムーズになれば使いやすいものになるのではないかと思います。いずれにせよこういったHPの存在はとても意義のあることだと思いますので、できる限りの手伝いをしていきたいと思っています。【ブログの母】



## 5 研究のまとめ

学校Webサイトを活用し、情報活用の実践力を高めるために、教師が指導しながら記事作成を行い、サポーターと交流したことを通して、次のようなことが明らかになった。

- (1) 竹の子ルームに記事作成のためのマニュアルや規約を作成したり、掲示板を活用し、教師が作成記事に対してアドバイスや、添削をしたりしたことで、児童は、学校Webサイトから発信するのに適切な内容を考え、分かりやすい記事作成を行うことができた。
- (2) 竹の子ルームに写真の撮り方のコンテンツを作成したり、児童が自分で情報機器やインターネットを利用したりしたことで、児童は、写真と文字情報を組み合わせた情報発信の仕方に気を付けて、記事作成を行うことができた。
- (3) サポーターが校外からコメント記事を投稿してくれたことや、竹の子ルームで教師が作成記事への具体的なアドバイスを行ったことで、児童は、Webサイトの特性を考え、個人情報の保護等に気を付けながら、様々な閲覧者がいることを意識して記事作成を行うことができた。
- (4) CMSを利用して作成したサポーターと交流できる学校Webサイトは、情報活用の実践力を高めるために有効な手段であった。

## 6 今後の課題

- (1) より多くの児童が参加できるよう、学校Webサイトからの情報発信を各教科等の年間計画に位置付けていきたい。
- (2) 児童が情報発信を行う際には、今後も継続的に情報モラルや情報発信の責任についての指導も行っていきたい。
- (3) 保護者や地域住民に対して、作成したWebサイトの趣旨を理解してもらい、参加を粘り強く呼びかけサポーターを増やしたい。
- (4) 関係機関と連携し、今後CMSを公式Webサイトに導入できるようサーバ環境の整備を行いたい。

### <主な参考文献>

文部科学省「初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について」  
平成18年8月

中央教育審議会「新しい時代の義務教育を創造する」 平成17年10月

文部科学省「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」 平成18年3月

新井紀子編著「教育の情報化マニュアル はじめよう！NetCommons1.1」 国立  
情報学研究所 平成20年3月

### <参考URL>

みんなで作る参加型ホームページ <http://kensyu-takesho.sakura.ne.jp/>

NetCommons公式Webサイト <http://www.netcommons.org/>

A Trial Product's 素材置き場 <http://atp.boj.jp/>

\*本研究では、NetCommonsのバージョンは1.1.3を使用した。